

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 渡邊聡明 東京大学医学部腫瘍外科・血管外科 教授）

研究要旨

大腸癌治療ガイドラインは、大腸がんを診療する上で重要な役割を果たしている。その大腸癌治療ガイドライン作成に当たり、大腸がん登録はこれまで大きな役割を果たしてきた。今後より良いガイドラインを作成する上で、現行の大腸がん登録の問題点と、NCDとの連携がもたらす効果につき検討した。

A. 研究目的

現在行っている臓器がん登録（大腸がん登録）について、大腸癌治療ガイドラインとの関連につき以下の点について検討する。

- ① 大腸癌治療ガイドライン作成における臓器がん登録の役割
- ② 大腸癌治療ガイドライン作成における問題点
- ③ NCD登録との連携が、大腸癌治療ガイドライン作成に果たす役割
- ④ NCD以外の第三者機関との連携の可能性

B. 研究方法

臓器がん登録の現状を整理し、その現状および他臓器がん登録の試みも踏まえ、上記①～④について検討する。

（倫理面への配慮）現行の大腸癌登録データは連結不可能匿名化情報である。

C. 研究結果

- ① 大腸癌治療ガイドライン作成における臓器がん登録の役割
大腸癌治療ガイドラインは大腸癌研究会が中心となり作成している。現状では、ガイドライン作成にあたり、臓器がん登録で得られたデータを提供し、実臨床に即したガイドライン作成に寄与している。
- ② 大腸癌治療ガイドライン作成における問題点
大腸がん登録の悉皆性は6-7%で推移しており、全国すべての施設の治療成績を反映しているとは、言い難い。
- ③ NCD登録との連携が、大腸癌治療ガイドライン作成に果たす役割
大腸がん登録がNCDと連携し、悉皆性が向上すれば、より実臨床のデータを反映したガイドラインの作成が可能になると考えられる。

- ④ NCD以外の第三者機関との連携の可能性
想定していない

D. 考察

これまで大腸癌研究会を中心に行ってきた大腸癌全国登録は、情報粒度が担保され、これまで大腸癌治療ガイドラインの発刊・改訂にも大きな役割を果たしてきた。

ただし、大腸癌手術例全体における症例カバー率は6-7%で推移しており、悉皆性に問題がある。NCDと連携することで、より多くの施設の治療成績を反映したガイドラインの作成が可能になると考えられる。一方、以下の問題点につき解決する必要がある。

資金：データベースの構築・維持・データ利用のために100万円程度の資金が必要であり、その確保が問題となる。

悉皆性：多くの施設から登録が期待される反面、強制力やインセンティブがないため、悉皆性の改善は必ずしも期待できない。専門医制度や登録情報の活用機会などのインセンティブなどについても検討を要す。

情報粒度：より多くの施設からの大腸がん登録を進めるためには、現行の情報粒度を担保することは困難と考える。必要最低限の項目にする必要があり、NCDとの連携に当たっては、これまでの登録項目の全面的な見直しが必要と考える。

データへのアクセス：現状では、NCDではデータを自由に用いることができない。そのため、ガイドライン改定に当たり多くの規制が生じ、ガイドライン改定に要する期間が延長する懸念がある。

<p>E. 結論 大腸がん登録システムが大腸癌治療ガイドライン作成・改訂に果たす役割，現状の問題点について検討した．NCDとの連携にあたり，悉皆性の向上に繋がる可能性があるものの，データアクセス等の問題点も浮き彫りとなった．今後更なる検討が必要と考える．</p> <p>F. 健康危険情報 該当なし</p> <p>G. 研究発表</p> <p>I. 原著</p> <p>1: Takiyama A, Tanaka T, Yamamoto Y, Hata K, Ishihara S, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Nishikawa T, Otani K, Sasaki K, <u>Watanabe T</u>. Microsatellite Status of Primary Colorectal Cancer Predicts the Incidence of Postoperative Colorectal Neoplasms. <i>Anticancer Res.</i> 2017 Oct;37(10):5785-5790.</p> <p>2: Abe S, Kawai K, Nozawa H, Hata K, Kiyomatsu T, Tanaka T, Nishikawa T, Otani K, Sasaki K, Kaneko M, Muro no K, Emoto S, <u>Watanabe T</u>. Use of a nomogram to predict the closure rate of diverting ileostomy after low anterior resection: A retrospective cohort study. <i>Int J Surg.</i> 2017 Nov;47:83-88.</p> <p>3: Takiyama H, Kawai K, Ishihara S, Yasuda K, Otani K, Nishikawa T, Tanaka T, Kiyomatsu T, Hata K, Nozawa H, Morikawa T, <u>Watanabe T</u>. Different Impacts of Preoperative Radiotherapy and Chemoradiotherapy on Oncological Outcomes in Patients with Stages II and III Lower Rectal Cancer: A Propensity Score Analysis. <i>Dig Surg.</i> 2017 Jun 21.</p> <p>4: Sonoda H, Kawai K, Yamaguchi H, Muro no K, Kaneko M, Nishikawa T, Otani K, Sasaki K, Yasuda K, Tanaka T, Kiyomatsu T, Hata K, Nozawa H, Ishihara S, Aikou S, Yamashita H, Ushiku T, Seto Y, Fukayama M, <u>Watanabe T</u>. Lymphogenous metastasis to the transverse colon that originated from signet-ring cell gastric cancer: A case report and review of the literature. <i>Clin Res Hepatol Gastroenterol.</i> 2017 May 16. pii: S2210-7401(17)30093-1.</p>	<p>5: Ishihara S, Kawai K, Tanaka T, Kiyomatsu T, Hata K, Nozawa H, Morikawa T, <u>Watanabe T</u>. Oncological Outcomes of Lateral Pelvic Lymph Node Metastasis in Rectal Cancer Treated With Preoperative Chemoradiotherapy. <i>Dis Colon Rectum.</i> 2017 May;60(5):469-476.</p> <p>II. 学会発表</p> <p>6. 野澤 宏彰, 石原 聡一郎, 川合 一茂, 畑 啓介, 清松 知充, 田中 敏明, 西川 武司, 大谷 研介, 安田 幸嗣, 佐々木 和人, 金子 学, 室野 浩司, 池村 雅子, 森川 鉄平, 深山 正久, <u>渡邊 聡明</u>. 大腸癌における神経周囲浸潤のリスク因子と予後への影響の検討. (ポスター) 日本大腸肛門病学会 2017. 11. 10-11:福岡</p> <p>7. 石原 聡一郎(東京大学 腫瘍外科), 川合一茂, 金子 学, 室野 浩司, 佐々木 和人, 安田 幸嗣, 大谷 研介, 西川 武司, 田中 敏明, 清松 知充, 畑 啓介, 野澤 宏彰, <u>渡邊 聡明</u>. 術前化学放射線療法後の直腸癌における側方リンパ節郭清の成績. (サージカルフォーラム). 日本外科学会定期学術集会. 2017. 4. 27-29:横浜</p> <p>H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)</p> <p>1. 特許取得 なし</p> <p>2. 実用新案登録 なし</p> <p>3. その他 なし</p>	
--	---	--